

南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和7年 1月20日 (月)
学校関係者評価委員会作成

第二回 学校関係者評価委員会

実施日：令和7年1月20日 (月) 午後1時00分～2時15分

会 場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

名取 昇 (小笠原区自治会長, 学校評議員)
小池 文二 (山寺区自治会長, 学校評議員)
齊藤 至 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)
西川 寛美 (主任児童委員 学校評議員)
飯久保一男 (前小笠原小学校校長 学校評議員)
新津 岳 (元市教育委員会教育部長 学校評議員)
佐野 紳二 (校長) 深澤 鉄也 (教頭)

内 容

- 1 学校から提案の内容
 - ①来年度に向けての本校の予定・検討課題
 - ②学校評価の方法について
 - ③評価の全体的な傾向について
 - ④教職員自己評価シートの内容と結果について
 - ⑤児童アンケートの内容と結果について
 - ⑥保護者アンケートの内容と結果について
 - ⑦まとめ…学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について
- 2 協議された主な内容
 - ①全体評価について
 - ②来年度に向けての検討課題について
 - ③項目ごとの評価・達成状況・改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員の自己評価及び児童・保護者アンケートの結果を見ると、昨年から引き続きほとんどの項目でプラスの評価であった。小笠原小学校では学校経営方針に基づき、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが子どもたちや保護者に肯定的に評価されていると考えられる。

II 学校関係者評価委員会の中で出された主な意見

※「①, ②, ③…; その他」: 評価項目 「・」: 評議員から出た意見 「→」: 学校の回答

【来年度に向けての検討課題について】

(1)学校運営協議会設置に向けて

- ・楡形中学校区でCSを導入する際に、学校評議員会を学校運営協議会に移行することになる。市の

規定で学校運営協議会のメンバー数は6名と定められているため、現在8名いる学校評議委員の数を2名減らさなければならないと聞いたが、小笠原区と山寺区はそれぞれ一つの区として独立している自治会長はぜひ残してほしい。

- ・現在評議員会に民生委員と主任児童委員が入っているが、どちらも児童や家庭にかかわりが深いので残してほしい。
- ・実際に学校運営協議会を設置していた常永小と八田小の経験から、学校評議委員と学校運営協議会の違いに着目して構成メンバーを決めるといいと思う。評議委員は学校の教育活動について話し合うだけだが、学校運営協議会のメンバーは、学校教育のために一緒に実働できる人が望ましい。その人たちが、率先して授業や作業をしてくれたり、学校のために動いてくれる人を集めたりしてくれる。
- ・学校をよりよくしていこうという意識のある人が望ましい。話し合いで文句ばかり言っている人は困る。

→今のご意見を参考に、近隣の学校運営協議会を設置している学校の状況を確認して考えていく。

(2) チーム担任制の段階的導入（学年毎のクラス替えの実施・教科担当のローテーション化）

いろいろな先生に教わることは、多様で予測不可能なこれからの社会を生きる子どもたちにとって良いことだと思う。ぜひ推進してほしい。

【教育活動全体について】

- ・暖房をしながらも、どの教室も換気が徹底されており、さらに加湿器も設置されていて感染症対策もしっかりなされていた。市教委に学習環境を整えていただけて嬉しい。
 - ・給食は栄養バランス・メニューの工夫・味付けなどが素晴らしく、これを1食318円で提供していただけるのは大変ありがたい。また現在、市の政策で児童・生徒の給食無償化を行っていただいているので、家庭でも大分助かっているのではないかと。市も大変だとは思いますが、今後も引き続き給食内容の工夫・給食代・支援政策等を継続していただきたい。
 - ・トイレの洋式化を完全に行ってくれると聞いてありがたく思っている。
- 市教委には、学校の環境の改善に注力していただいている。来年度もトイレの洋式化だけでなく、黒板の貼替やプールの温水器の交換・循環器修理、勤体倉庫の改装などをしていただけることになっている。保護者や児童や学校関係者からの要望をこれからも積極的に伝えていきたい。
- ・学校評価の結果は昨年度と同程度の結果となっているが、全体的にマイナス傾向が見られたことの一員として、学校評価の実施回数が、1学期末と2学期末の2回から、2学期末の1回となったことによる「評価項目（内容）と本校の課題の周知不足」を挙げていたが、もしそうなら学校評価を年間2回に戻してはどうか。
- 学校評価の質問項目や実施回数については市教委の指導の下、楡形中学校区5校である程度統一している。今年度は年間2回を年間1回に変えた1年目である。来年度は年度当初の職員会議で「昨年度の本校の課題」と「課題のある項目」を職員が共有し、年間を通して課題解決を意識したと教育活動を行っていくことで改善を図っていきたい。

【今日の授業について】

- ・昔の授業と違い、今は子どもたちに考えさせる授業を行っていた。先生方の言葉遣いもよいと思う。
- ・若い先生は友達感覚で子どもと話をしている場面が見られた。話は最後まで意識して話す必要がある。校内研等で丁寧な言葉遣いを定着させていくといいのではないかと。
- ・学校全体が整理・整頓されており、教室の掲示物もそれぞれ工夫してあった。学習にふさわしい環境で学習できることは児童にとって大切なことだと感じる。

- ・子どもたちが落ち着いて授業に臨んでいた。特性や課題のある児童も、先生方の指導のおかげで大きく成長して意欲的に授業に取り組んでいる姿を見ることが出来てよかった。
- ・学年が上がるにつれて授業や児童の雰囲気が変わる。高学年になるとより考える授業づくりがされている。また、字が上手になっていく。
- ・学校の備品を上手に活用している。拡大機やPCデスク・ICT機器等、労働時間の縮減や学習形態の工夫に役立てられていた。
- ・学習内容や学習に使用する機器が大きく変化しており、それに対応する教員は大変だと思う。
- ・学習のスタンダード（やまなしスタンダード・小笠原スタンダード）が広がっていると感じた。若い先生が多いが、スタンダードがあるのおかげで教育活動がうまくいっている。

【教職員自己評価について】

- ⑥「あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。」⑧「あなたは、教材・教具（ICT機器を含む）効果的に活用する授業を行っていますか。」
- ・上記の項目に関連して、働き方改革の推進が進められている中、放課後やそれ以降に教材や授業、子どもについて話をしている先生方はどれくらいいるのか。私たちが教員の頃は、放課後に先輩の先生と話をしてそういうことを学んできたが、今小笠原小学校ではどのような様子なのか。
 - ・若い職員が多いが、若手職員がベテランから学ぶ時間は取れているのか。
- 本校は南アルプス市内でも職員が遅くまで残っている職員が多い学校で、放課後の時間を使って教員同士で学び合い・教え合い・情報交換等を行っている。ベテランが授業づくりや学級づくりなどの技術などを若手職員に伝え、若手職員はICTの活用法などをベテラン職員に教える等、職員が相互に学び合い・教え合いが日常的に行われている。
- ⑦「あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。」
- ・評価が低くなっているが、授業で使っていた Canva キャンバを使ってホームページに連動させると情報発信がしやすくなると思う。しかしホームページの作成は感性が重要なので一概には言えないが。
- Canva はリンクさせることでホームページにアップできるのであれば活用する価値はあるかもしれない。ホームページの作成を前校長から引き継いで2年弱取り組んできたが、毎日の更新を保護者が楽しみにしてくれていて、着実に閲覧数が増えてきた。
- ⑨「あなたは、Simple プログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。」の項目は肯定的な回答の割合が100%となっており大変素晴らしいと感じる。

【児童アンケートについて】

- ⑩「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」
- ・ICTを中心にして授業を行うと言葉を口にして伝える機会や意識が減る傾向がある。
 - ・児童評価は学年ごとの集計が出せると思うので、その結果を学校で取り上げ、それに応じて学年ごと対応をしたほうがいいのか。
 - ・考えを伝えられるかは、まず自分の考えをもつことが出来ているかが大切だと思う。それには⑩「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の項目の評価が少し悪くなっていることも関連しているのではないかと。まず「考えをもたせる」次に「考えを伝える」と繋げることを意識する必要があるのではないかと。
 - ・昔は教師一方的に授業内容を伝えていたが、今は子どもに考えさせる授業を行っている。
 - ・1年生のアンケート項目でも「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」という項目でアン

ケートに回答させているのか。

→1年生はアンケート項目が変えてあって「わたしは、じゅぎょうちゅうにはっぴょうしている。」という項目でアンケートに回答してもらっている。

⑭「私は自分からあいさつしている。」

- ・昨年度より否定的回答が増加しているが、日常の中でも、昨年より大分あいさつが減っていると感じる。
- ・見守り活動をしていて、こちらからあいさつしても、あいさつが返ってこないが増えたと思う。しかし、いろいろな個性や特性があるので、あいさつが返ってこなくても、「この子はあいさつをしない。」と決めつけずに大人から声をかけ続けることが大切だと思う。また、何人かはつぶやきのようなあいさつをしたり、会釈をしたりしているので、元気なあいさつでなくてもいいという視点を変えてもよいのではないかと。特に大人びた子からはあいさつが返ってこない傾向がある。
- ・年間を通して声をかけ続けることで、あいさつをしてくれるようになる。
- ・あいさつするだけでなく、話しかけることで子どもたちと人間関係づくりをすることが大切だと思う。関係をつくることができれば自然とあいさつできるようになる。

【保護者アンケートについて】

自由記述

「宿題の量が学年のわりに多いと感じる。」

- ・家庭学習の習慣化という視点から考えると、宿題はある程度出した方がいい。その際に保護者に理解してもらう必要がある。
- ・1年生の宿題については、量が適正かどうかを考える必要がある。また、自主学習を推進したほうがよい。

「あゆみの「生活の様子」で「がんばろう」の評価をつけた理由が分からない。」

- ・なぜ「がんばろう」なのかをその内容を保護者に伝える必要がある。このことは校内で共有して対応しないと保護者からの信頼を得られない。

【職員アンケートと児童アンケートと保護者アンケートの結果の違いについて】

- ・職員アンケート⑭「あなたは、対話を意識した学び合いを授業に取り入れていますか。」⑮「あなたは、Simpleプログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。」の項目は肯定的な評価の割合が大きいが、児童アンケートの⑩「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」の項目は、昨年に引き続き児童アンケートの全項目の中で最も評価が低く、そのギャップが気になる。
- ・児童アンケート⑯「わたしは、朝ごはんを食べて登校している。」の否定的回答が7.1%で、「食べていない」もしくは「あまり食べていない」児童がおおよそ30名弱いると考えられる。しかし、保護者アンケート③「お子さんは、朝ご飯を食べてどうしていますか。」の否定的回答は1.3%で、「食べていない」もしくは「あまり食べていない」と保護者が思っている児童がおおよそ5名と考えられる。保護者は食べていると思っているが、実際には食べていない児童が20名以上いるという可能性があることを保護者に投げかける必要があるのではないかと。
- ・児童アンケート⑰「わたしの家では、携帯電話・スマートフォンを使うときのルール（やくそく）がある。」の肯定的回答は64.9%だが、保護者アンケート⑱「携帯電話・スマートフォンを持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか。」の肯定的回答は93.7%否定的回答が7.1%だった。この結果からほとんどの保護者は携帯電話・スマートフォンを使うときのルー

ルを家庭でしっかりと決めてあると考えているが、それを理解していない・分かっていない、児童が30%以上いると考えられる。この結果は保護者に伝える必要があるのではないか。

【その他】

- ・資料（自己評価書）の事前配付をしてもらえてよかった。事前配付してあったので、教頭からの提案内容は詳しい説明でなくてよいのではないか。また、今回は3日前の配付だったが、もっと早めに配付してもらえれば各自がじっくり考えて、各自が紙に意見をまとめて持ち寄ることができる。また、クロス集計などを行いさらに詳しくデータを見ることができる。
- 検討が必要になるが、配布を前倒しする場合は「学校評価」の実施を11月中に行う必要がある。

Ⅲ 達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、今年度もある程度安定した学校運営がなされ、教職員と児童・保護者・地域との関係も良好であることがうかがえる。しかしながら、教職員・児童・保護者のアンケートはいずれも昨年度と同程度の結果となっているが、全体的にマイナス傾向が見られたことは課題として改善していく必要がある。また、児童アンケートと保護者アンケートの結果や、児童アンケートと教職員アンケートの結果にズレが見られる項目が複数見られることは大きな課題であり、今後検証していく必要がある。来年度に向けた課題解決策としては、①来年度は、本校の課題と、課題となる評価項目を職員間で早期共有して対策を考え実行する。②今年度中に全職員による改善策の提案・計画・実行をする。③欠員の解消に向けての働きかけを行う。④行事や研修等を含む教育活動全般を見直す。⑤アンケートの対象によってズレのある項目のクロス集計および原因の究明に基づいた対策を行う。の5つに取り組み、本校の教育活動をより良いものとしていってもらいたい。